

# 海風日記

さまざまな記憶を包含した貴重な収蔵品が日本郵船歴史博物館にあります。海風が日記をめくるように積み重ねた歴史を紹介します

## “ 海運報国 ”



1940(昭和15)年9月号の目次

1940(昭和15)年6月号の巻頭ページに掲載された第17回端艇競漕大会の記事

### 『海』

「海運報国」は、郵船海運報国会<sup>※</sup>が発刊した機関誌で、社内報と同じ位置付けの冊子であったと考えられます。創刊は1939(昭和14)年5月、毎月100ページ前後で月1回の発行でした。

目次には、当時の社会情勢を反映したタイトルが並び、当社の囑託だった内田百閒(1889-1971)をはじめ作家や著名人による随筆、あるいは社員の投稿で構成される俳句・短歌講座など、文芸誌的な要素も盛り込まれていました。また、端艇競漕大会、NYKグループ水上運動会や船員対抗野球、各支店で実施された登山、庭球大会など社内活動報告も多く見られます。連載の「和食料理講座」は、かつて横浜支店にあった事務部長養成所の調理教師が執筆していました。

『海運報国』は出征した社員にも届けられました。「陣中通信」は戦地からの手紙を紹介するコーナーで、文面には、「軍務の余暇に見る一頁々々、我社の躍進振りは全く御同慶に堪へ難く楽しみに拝見」「孤独なる警備任務中唯一の友として繰り返し愛読」「拝する度に懐奮と感激の念に咽び居る次第」といった言葉がつけられています。緊迫した日々の中、『海運報国』を手にした社員たちの交錯した思いが伝わってくるようです。

日本郵船歴史博物館では創刊号から1943(昭和18)年2月号までを所蔵しています。社内報はその後、1958(昭和33)年に『ゆうせん』が発刊され、これが現在のグループ報『YUSEN』へとつながられています。

※ 郵船海運報国会：1939(昭和14)年1月、社内で設立。報国会とは戦意高揚の時代、労働者を軍需産業に従事させる目的で、全国の各企業内に置かれた労使一体の組織のこと

#### 問い合わせ

#### 日本郵船歴史博物館

- 所在地：神奈川県横浜市中区海岸通3-9
- 電話：045-211-1923
- 開館時間：午前10時～午後5時  
(最終入館：午後4時30分)
- 休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)
- 臨時休館日：1月14日(木)～2月8日(月)

- 入館料：一般400円、シニア(65歳以上)・中高生250円、小学生以下無料  
(NYKグループ社員と同伴者1人まで、社員証の提示で入館無料)
- ウェブサイト：<https://museum.nyk.com>

